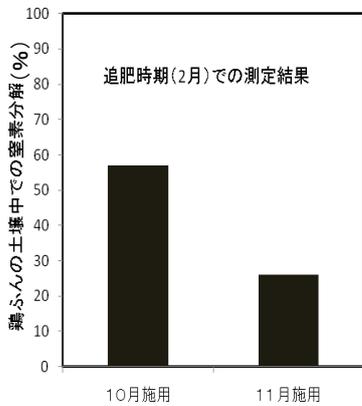


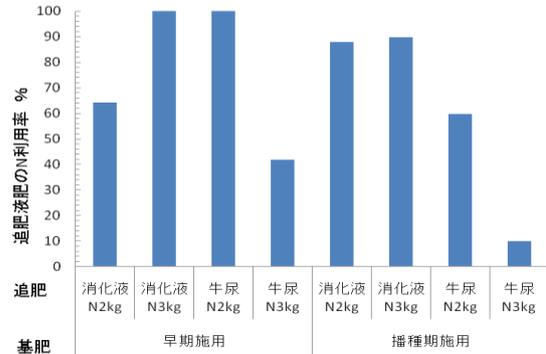
## 有機資源を活用した小麦の無化学肥料栽培

鶏や牛の排せつ物を材料とした有機質資源だけを使った小麦の施肥方法を開発しました。①鶏ふんは、小麦の前作を収穫した後すぐに施します。早期に施すと、通常の時期に施した場合より土壌中の鶏ふん窒素の分解が高まります。②追肥は有機液肥(メタン発酵消化液、牛尿曝気(ぼっき)液など)を葉面散布します。葉面散布した有機液肥は高い追肥効果が得られます。牛尿は各成分が濃いため、施用量はアンモニア態窒素で2kg以内にします。

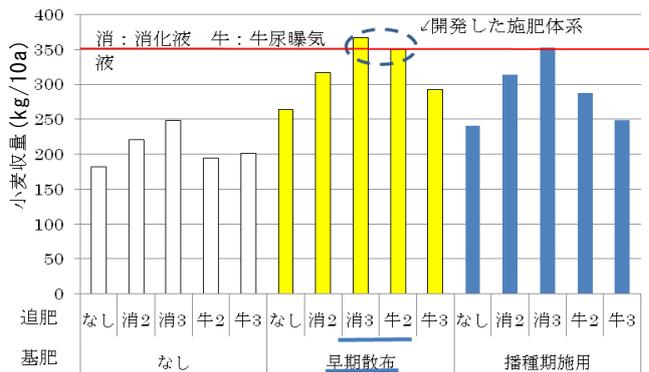
これらの体系で小麦を栽培したところ、小川町の水田で350kg/10a、狭山市の畑で300kg/10aの収量が得られました。



鶏ふんを早期(10月)に施用すると土壌中での窒素分解が向上します。



メタン発酵消化液、牛尿曝気液の追肥効果は高く、基肥を早期施用するとより効果的です。



開発した施肥体系で、水田(小川町)で350kg/10a、畑(狭山市)で300kg/10aの反収を実証しました。



小川町で実証



狭山市で実証  
(開発した液肥散布法)